



コロナと学校

韓日合同教育研究会 キム ソンホ

みなさん、こんにちは。韓日合同教育研究会のキムソンホです。

長期化しているコロナ-19の状況によりご苦労が多いことと思います。韓国でも状況は同じで、社会的、経済的に大きな困難に直面しています。今日はその中でもコロナ禍における子ども、保護者、教師たちが経験している困難と問題点、そしてこれを克服しようとしているさまざまな努力を中心にお話ししようと思います、

1. 韓国におけるコロナ-19 状況

2020年10月16日時点で、感染者 25,035 人、死者 441 人となっています。1日の感染者数は、昨日で 47 人（地域発生 41 人、海外流入 6 人）と、多少の落ち着きは見られるものの、安心はできない状況です。これまで集団感染が数件発生し、今も散発的感染が続いています。特に、感染しても症状のない無症状者と感染経路がわからない感染者が多数いるため、拡散防止が困難となっています。ただ、今週からソーシャルディスタンスが1段階下方修正され、各種の集まりやインターネットカフェ、カラオケボックスなど感染危険施設に対する制裁が緩和されました。

2. 教師、保護者の要求と解決方策

遠隔授業の長期化に伴い、学力格差や家庭でのケアが困難なため、登校授業日数を増やすべきだという要求が相次いでいます。

まず、学力格差です。最近、全国小中高校の教師 5 万人あまりを対象に行なった自主的なアンケート調査で、学力格差が大きくなったと回答した教師が 79% だという。学習空白を家庭で埋めるか否かで学力格差が広がっています。特に中位圏の子どもたちの成績が皆下に下がりました。オンライン授業そのものが教師と対面で

目 次

| | |
|-----------------|---|
| コロナと学校 | 1 |
| 在日韓国朝鮮人教員の社会科授業 | 3 |
| その「ひたち」に乗って | 8 |

フィードバックを受けながら学べる構造ではない。そのため、学校での指導を受けただけでも、ある程度ついてこられる子どもまで放置されているのが現状です。保護者のアンケート調査でも登校賛成の理由として学歴格差をあげました。それで私の学校では「基礎学力教室」と「激励教室」というプログラムを通じて基礎学習不足の子どもたちを支援するために努力しています。

また、学校に出る日数が減り、バランスの取れた給食を食べられないことによる栄養不均衡の問題も深刻になっています。私の学校の子どもたちの場合、朝食抜きで登校する生徒の割合が高い方ですが、それでも学校での給食不足部分を多少補いました。保護者が共働きの場合、子どもたちの食事の世話をすることも侮れません。ただし、給食日数が減る一方、残りの予算を活用して各種農産物が入った食材という名目で各家庭に送っています。

関係形成の問題も深刻です。学校に来て友達と一緒に遊ぶこともできず、グループ学習も不可能な状態で、お互い話すことさえはばかるようになり、関係形成に悪影響を与えています。ある意味学力格差問題よりも深刻なのが関係形成の問題だと思います。この部分は学校でも本当に解決しにくい宿題のように思います。

このような状況で登校日数を増やすことには、教師、保護者ともに賛成する立場がある一方、学校内のソーシャルディスタンスの難しさ、長時間マスク着用の不便さ、団体給食に対する懸念などを理由に反対する比率も少なくありません。

3. 登校および授業状況

生徒の登校日数や登校形態は、ソーシャルディスタンスの段階によって異なります。今週(10/11~10/18)からソーシャルディスタンスが1段階に下がりましたが、学校の場合、今週末までは学校密集度を小学校と中学校は全校生の1/3以内、高校は2/3以内の範囲で登校するようにしています。したがって、クラスの子どもたちを奇数、偶数に分け、子どもたちは週1回登校し、担任の先生たちは同じ授業を2回することになります。

来週からはソーシャルディスタンス1段階が適用され、全校生2/3以内の範囲内で密集度を守りながら登校が可能になります。したがって私の学校の場合、1~2年生は週4回、3~6年生は週3回午前だけ登校します。午後と登校しない曜日はオンライン授業として運営される予定です。ただし、全校生300人前後の学校は教師、保護者の意見をとり入れて毎日登校も可能です。

オンライン授業は、主にZOOMを活用したリアルタイム授業と教授学習支援サービスである「e-学習場サイト」を利用したサイバークラスを通じて行なわれています。オンライン授業が難しい1~2年生には、EBS教育放送を視聴して、科目別、校特別に学習内容とワークシートをまとめた学習パックを提供しています。

4. 学校における防疫状況

コロナ-19状況においていちばん重要な防疫のために、つぎのような努力をしています。

まず、子どもたちは登校前に家庭で自己診断を実施して、確認後症状がない場合のみ登校できます。学年別登校時間も異なり、1~2年生は8時30分~8時40分、3~4年生は8時40分~8時50分、5~6年生は8時50分~9時に登校し、熱画像カメラまたは非接触式体温計で必ず発熱チェックをして教室に入ります。授業開始時間も1~3年生は8時50分から、4~6年生は9時までとなっています。発熱チェックは昼食前にもう一度行ないます。

教職員も毎日自己診断サイトで自己診断を行い、異常がない場合は出勤しています。発熱チェックのため、3~4人ずつグループになって毎朝活動し、登校時または授業中に37.5度以上の発熱

が確認された子どもは、一時的な観察室に移動させ、保護者に連絡して帰宅措置をとっています。一時的観察室は、症状のある子どもをクラスメートと隔離するための場所で、学校ごとに一ヶ所以上用意されています。

また、教育庁から約2名の防疫活動スタッフ派遣の支援を受け、発熱チェックや教室の消毒を行なっています。これとは別に1ヶ月に1回程度は学校全体で消毒をしています。

授業をしながら子どもたちが言ったことの中で記憶に残っていることばがあります。それは「先生、マスクを脱いで授業を受けるのが夢です」です。ただ、これはこの子どもだけの願いではないでしょう。いつ終わるか分からないコロナの状況ですが、子どもの願い、そして私たち皆の願いが早くかなうことを切に願っています。

(訳:遠藤正承)

在日韓国朝鮮人教員の社会科授業

金

本稿は2020年度全国教研集会の社会科部会で、東京都代表で発表予定だった報告です。

コロナウィルス感染拡大防止のため、今年度の教研集会が中止となってしまい、発表する機会がなくなってしまったものです。

発表することができなくなった報告ですが、形が変わって発表する機会に恵まれたことに感謝します。

1 現任校と地域紹介

現任校であるXXX中学校は、東京都の最北部、荒川と新河岸川の南側に位置し、埼玉県戸田市と和光市に隣接している。

江戸時代、この地域は徳丸ヶ原と呼ばれる荒川の後背湿地であり、腰までつかる湿地帯であったため、耕作に適さず、幕府の鷹狩場や砲術訓練所であった。明治に入り、荒川の水資源を頼りに耕地化が進み、昭和初期まで、東京都で生産される米の7割を生産するなど、東京屈指の米どころとなっていた。

日本が高度経済成長期の中、1960年代後半から地域一帯に宅地造成が始まった。同時に東京都心と直結する都営地下鉄三田線の建設が始まり「東洋一のマンモス団地」と呼ばれた高島平団地が誕生することになった。学区域には団地だけではなく、戸建て住宅も非常に多く存在する住宅街に変貌した。

1970年代に入り、さらに多くの団地が造成され、比例するように入居者が増加し、第二次ベビーブーム世代の人口増加もあり、1980年に本校は開校した。

2 生徒たちと日本・朝鮮・韓国の情勢と認識

「金先生、TWICE(韓国を中心にアジアで活動しているアイドルグループ)知らなかったんですか?マジですか?!」いくら朝鮮韓国にルーツのある私でも、今のK-POPについては知らないことの方が多い。むしろ生徒たちの方が詳しく、流行りを生徒たちから教えてもらっているといった状況である。学校では、給食の時間の放送でもK-POPが流れるのは当たり前になっている。

「韓流」が生徒たちに広まり、ハングルも日本の日常で目にすることが増えてきた中、都内の

街角で嫌韓デモが行われてきた。「韓国朝鮮人を殺せ！」…ダイレクトに身の危険を感じるヘイトスピーチが繰り返され、それは野放し状態である。加えて最近の日韓日朝関係は最悪な状況であり、日本のメディアは「過去の徴用工問題は解決済み」「北はミサイル、拉致国家」といった日本の現政権の偏った考えを何の検証もなく報道するといった異常な状況が続いている。また、昨年に杉並区議による「朝鮮通信使は強盗を繰り返す凶悪犯罪集団」といった、歴史の専門家でもない政治家による何の根拠もない発言も一つや二つではない。

こうした状況がある中、「歴史問題など難しいことはあるけど、歴史に捉われずに新しい未来を築きたい」…若い人々の間では、朝鮮・韓国の認識は大きく変化し、理解しあっていくという「前向き」な考えのように見える。しかし、「歴史に捉われず…」ということは、歴史問題はもう放っておくもの、厄介なもの、強いて言えば触れたくないものと言っているに等しい。

これではいつまでたっても、真の友好関係を築くことはできない。被害と加害の事実があるにもかかわらず、上記のようなヘイトスピーチ、暴言が綿々と続いているところで、加害側が「歴史に捉われず」などというのは、日常の人間関係に置き換えても納得のいくものではない。つまり、侵略の歴史を直視し、事実を理解することは、人としての生き方を問うこと、他者を知り理解する力を養うことにつながるのである。そのために、歴史教育の中で、日本の侵略の歴史はしっかり学ばせる必要がある。

そこで行った授業の一つが「朝鮮通信使について」の歴史授業である。「平等な国どうしの交わりで大切なことは何か」を生徒たちに考えさせることが授業の目的である。

3 朝鮮通信使の授業単元について

この単元は「武士による支配の完成」という項目が教科書に出ているが、江戸幕府による幕藩体制に注目させるというよりも、貿易統制されていながらも、外国とのつながりがあること、外国との関係で貿易だけではなく、真の友好関係を朝鮮とは唯一おこなっていたこと、アイヌや琉球との関わりを幕府はどのようにしたかを理解し、国どうしの友好関係を考えるための材料とした。

また、教科書では織田豊臣時代と江戸幕府による幕藩体制の章立てが区切られているが、授業の流れでは区切りをつけなかった。

| 時 限 | 項目 | 学習内容・学習活動・目標 |
|--------|-------------------|---|
| 1 | 信長による全国統一 | 信長はどのようにして全国統一をしていったか、資料などを読み取る。 |
| 2 | 秀吉による全国統一 | 秀吉はどのような政策を行い、全国統一をしていったか、資料などを読み取る。 |
| 3 | 秀吉の朝鮮侵略 | 日本国外へ侵略を行ったことが、後にどのような影響を及ぼしたか資料などを読み取り考える。 |
| 4 | 戦国大名と豪商が担った安土桃山文化 | どのような文化が展開し、文化の担い手はどのような人々かを調べまとめる。 |
| 5 | 幕藩体制のはじまり | 江戸幕府は大名や朝廷を統制するために、どのようなしくみをつくったか。文章や資料などを読み取る。 |
| 6 | 朱印船貿易と貿易統制 | 江戸幕府の外交・貿易政策について、どう変化したか。年表などから読み取ったり考えたりする。 |

| | | |
|----|---------------|---|
| 7 | 四つにしばられた貿易の窓口 | 幕府は四つの窓口を通して世界とどのようにつながっていたか。かかわりを地図や資料を調べまとめる。 |
| 8 | 朝鮮通信使（本時） | 真の友好関係や平等な国どうしの交わりで大切なことは何か。資料を見たり話し合ったりして考える。 |
| 9 | 琉球王国とのかかわり | 薩摩藩とどのような関係であったのか。資料などを読み取り人々の生活がどう変化したかまとめる。 |
| 10 | アイヌの人々とのかかわり | 松前藩とどのような関係であったのか。資料などを読み取り人々の生活がどう変化したかまとめる。 |

4 本時の授業 朝鮮通信使

☆ 本時の授業目標 「平等な国どうしの交わりで大切なことは何か？」を考える。

☆ 使用教科書 帝国書院 社会科 中学生の歴史 (P.108~109)

資料集 新学社 ワイド版歴史資料集 (P.80~81)

(1) 導入 (5分) : 秀吉が行った朝鮮侵略の確認

T: 家康は貿易の利益をあげて幕府の財政をよくしようとするために、朱印船貿易を行った。

オランダと清とは長崎で貿易を行った。

そしてすぐ近くの朝鮮とも室町時代から貿易を行っていたが、江戸時代当初、朝鮮との関係はどうだったか？

S: 悪い関係！

T: それはなぜ？

S: 秀吉の朝鮮侵略があったから

(2) 導入から展開 (20分) : 家康が行ったことについての確認と行ったことについて考えを深める。

T: こうしたことから家康は朝鮮侵略を反省し、国交回復交渉を急いで行った。その窓口はどこ？

S: 対馬藩

T: すぐに受け入れられたか？

S: すぐには受け入れられなかった

T: そこで、「家康が朝鮮に反省の態度を示すために行ったことは何か？どのようなことを行ったのか？」考えてみよう。

①個人で考えさせる（教科書、資料集、ノートなどを見ながら：5分）

②小グループで話し合い（9つの小グループ 3~4人グループで：15分）

(3) 考えの発表（グループごとあるいは任意）

「秀吉の部下が連れてきた朝鮮人を朝鮮に返す」という答えが出てこなかった。

T: 秀吉の朝鮮侵略の時、どんなことをしたのかをもう一度よく考えてみよう。朝鮮にいきなり乗り込んだわけで、そこでどのようなことがあったんだろう？

反対に自分たちが被害を受けたことを考えるとどうだろう？

今のようにネットがある時代でもないから情報がすぐ入ってくることはない。だから、相手国の将軍や国王の顔すら知らない。当時は船で命からがら相手国へ渡っていった。片道半年はかかったこともある。ところが今は飛行機で東京ーソウル間は日帰り圏内。

ネットで国をまたいで情報が秒単位で伝わる。

顔もわからない相手国の人がいて、被害を受けたことからすると、本当に反省しているんだなと思ってもらうための行動って何だろう？ 普段の自分たちの生活と同じだと思う。「ごめんなさい」は大事だけど、同じ間違えをくりかえしていたら「お前本当かよ？」って疑ってしまうこともあるよね。だとしたら、目に見える形にしてどうやって反省を伝えたいだろうねえ。もう一度考えてみよう。

(再度 10 分ほど考えさせる)

(4) 再びグループで考えさせる (10 分)

(5) 考えの発表 (グループごとあるいは任意: 10 分)

ここでようやく日本に連れてこられた朝鮮人を帰すことということが出てくる。

(6) 本時のまとめをノートに記入させる

「平等な国どうしの交わりで大切なことは何か？」も含めてまとめを書かせる (5 分)

5 授業後の生徒の考え

授業後にそれぞれの考え「平等な国どうしの交わりで大切なことは何か？」の発表を行う時間を取れなかったため、定期考査の中に設問を設け、そこにそれぞれの考えを記入させることにした。

(1) 生徒の考え 「平等な国どうしの交わりで大切なことは何か？」…抜粋

※生徒が書いたそのままにしているため、ことばにおかしな部分もそのままにしています。

・お互いにメリットが多く、デメリットが少ない、あるいはない、貿易をすること。メリットが多ければまた貿易したいと思えるし、国と国の関係も良くなっていくから。

・貿易をしていくと、欲しいものが手に入り、だんだん友好関係が築かれなにかあれば助けってもらえる。

・力づくなことはしてはいけない。理由は力づくなことをしてしまうと、本当に困ってしまったときにお互いを信じられなくなり、頼ることができなくなるから。

・相手のことを考え、自分ができていることを考える。相手も同じことをすれば仲良くできると思うし、殺し合いや戦いは起きないと思う。まずは相手を優先的に！

・実際に会ってみて話してみることが大切。実際に会ってみれば日本側の気持ちや考えがすぐに伝わるから。

・自分たちの態度だと思う。もしも相手に国の態度が日本を馬鹿にするような態度だった場合、すごくいやな気持ちになるから、片方の国が、態度がとても良いと、相手側も態度をかえると思います。なので、対等な国同士で大切なのは、自分たち側の態度だと思います。

・対等な国同士で友好関係を築くには、うそをつかないことが大切だと思う。なぜならうそをつかないことにより信頼関係が生まれ、信頼できれば友好関係が築けると思うから。

・対等な国同士のかかわりで大切なものは、相手の立場に立ってみて、どちらにとっても不利にならなく、不満を持たないような意見を出せる、視野の広さと頭の良さ、そして思いやりの精神というものが大事だと思います。このようなものが必要だと考えた理由は、今までの戦争はどちらからかにとって、何かしら不都合なことがあつての戦争が多いと思うので、その不都合を最小限にできるもの、つまり思いやり、頭の良さ、相手の立場になって考えることのできる視野の広さが必要だと思ったからです。

・互いが互いのことを尊重し、納得のいくように平等にすること。理由：そうすれば「争い」や「奴隷」なども出てこなくてすむから。

・相手の法律や宗教を知る。争いを防ぐためと、相手に無礼にならないように。

・互いの文化を知り合うこと。文化を受け入れることで尊重しあえるから。
お互いの国の文化を教えあうこと。なぜなら、国の文化を教えあうことによって、受け入れられて貿易ができるようになったり、お互いの国の文化を知ることによって、参考になって国に取り入れることもできるようになるから。

(2) 生徒の考えを受けて（どのような傾向が見られたか）

- ①国同士の関係で「うそはいけない」という意見は、女子に多かった。
- ②秀吉の朝鮮侵略のことを踏まえているが、相手に謝罪する形を金銭やもので解決しようという意見が当初多く出た。
- ③ルールを決めることの大切さを多く訴えている。
- ④「いうこと聞かないなら相手をつぶせ」というような乱暴な意見は見られない。
- ⑤国同士の友好関係＝貿易をすることと思いがち？
- ⑥「お互いが平等な立場にいること」＝「同じ抑止力をもつこと」という意見も見られる。
- ⑦相手の文化、法律、習慣などを理解しようという意見も多い。そのために基礎知識が必要であることを見出している。

6 授業で大切にしていきたいこと

(1) アイヌ・琉球・朝鮮の歴史はしっかり伝える

- ・侵略の歴史を直視する大切さ
- ・歴史の事実を生徒たちに理解させるだけではなく、人としての生き方を問うこと、他者を知り理解する力を養う

(2) 在日の歴史を授業の中に入れる

- ・在日史
- ・自分と歴史とのかかわり 『在日コリアンの歴史』（明石書店）

(3) 日本の公立学校での授業（例）

- ・朝鮮通信使：平等な国どうしの交わりで大切なことは？
秀吉の朝鮮侵略から家康は反省の姿勢をどう示したか？
- ・韓国併合の単元：日本の土地調査事業の内容と祖父の話「わしの親父が日本人に土地取られた」
- ・日本の選挙制度：「先生は日本の参政権はない。だけど、韓国の大統領選挙の参政権はある」

(4) 南北朝鮮をどう語るか

- ・「韓国」なのか「朝鮮」なのか その時々で違う
- ・「朝鮮」＝「北朝鮮」ではない 日本の学术界では「朝鮮」を正式名称としている
- ・北朝鮮という呼称

7 植民地支配の歴史を教えること

(1) 加害の歴史を直視することで本当の意味での「一流」とは何かを考える。

近現代史の考えを深め、また道徳でも考えを深められる可能性がある。

(2) 学校生活で起きること＝現代社会問題

「まちがえたら、ごめんなさい」がいえること

(3) ダメなものはダメと言える力

見て見ぬふりをしない 勇気を持つこと

8 外国籍教員として

- (1) 在日であることを隠さずにしていくこと＝生徒と本音でぶつかり合えること
- (2) 日本の朝鮮植民地支配の歴史、戦後の日本・朝鮮・韓国を取り巻く様々な社会問題
社会科の授業内容と私自身のことが、そのまま教材になる立場

参考資料の一部を紹介します。(編集部)

参考資料3 中学校歴史教科書における朝鮮に関わる部分で各社の記述

(1) 秀吉と朝鮮に関する部分

| 出版社 | 内容 |
|------|---|
| 東京書籍 | 朝鮮侵略 明の制服を目指して諸大名に明示、15万人の大軍を朝鮮に派遣 7年にわたる戦いで、戦場となった朝鮮は荒廃し、日本に連行される者もいました。 (資料)豊臣秀吉の朝鮮侵略と朝鮮から連れてこられた陶工が始めた焼き物 全1ページ |
| 学び舎 | 「僧が見た朝鮮の民衆」- 秀吉の 朝鮮侵略 - 見出し 見開き2ページ 大軍が朝鮮を攻める 朝鮮民衆のたたかい 日本軍の敗戦と引きあげ 朝鮮の武将となった沙也可 |
| 清水書院 | 秀吉の対外政策 秀吉の 朝鮮侵略 (本文下欄外に記載)「また明への侵略をくわだて、 朝鮮にも服従してともに戦うことを要求した。これを拒否すると、秀吉は1592年16 万人の大軍を朝鮮におくった。」(全1ページ) |
| 帝国書院 | 「文禄慶長の役」(朝鮮侵略・出兵・進出 いずれも使用せず) 「秀吉は～～明にかわって東アジアを支配しようと考えました。～朝鮮には明を征服 するための協力を求めました。朝鮮がこれを拒否すると、1592年に15万人の大軍で 朝鮮へ攻め入り・・・」(全4分の3ページ+欄外の陶磁器、亀甲船、蔚山城資料) |
| 日本文教 | 「秀吉の 朝鮮への侵略 」(文禄・慶長の役の語句なし) 「朝鮮に日本への服従と日本軍の明への通行許可とを要求しました。」 元号使用なし すべて西暦 (全2分の1ページ) 欄外亀甲船、日本軍の朝鮮国内 の進路を示す地図のみあり |
| 教育出版 | 秀吉の外交と 朝鮮侵略 「一方、明やインドなどの征服も計画するようになり、朝鮮 に対して日本への服従と協力を求めました。これを拒否された秀吉は、1592年、約 15万の大軍を朝鮮に送りました。～7年にわたる戦いで、朝鮮の土地は荒れ、多くの 人々の命をうばわれたり、日本に連れてこられたりしました。(本文4分の3ページ) 本文外：亀甲船 有田焼写真 日本軍の進路の図 |
| 育鵬社 | 朝鮮出兵 「国力のおとろえつつあった明にかわり、日本を東アジアの中心とする新 しい国際秩序をつくろうとした。」「秀吉は明への案内役を断った朝鮮に15万の大軍 を送りました。この戦いは朝鮮の国土と人々に大きな被害を残すとともに出兵した大 名にも大きな負担」(4分の3ページ) |
| 自由社 | 朝鮮出兵 李舜臣(りしゅんしん 韓国語読みなし)「秀吉は明を征服して都を移し、 インドまでも支配するという壮大な野望を抱いた。」 「このとき徳川家康は朝鮮出兵に賛成し、九州まで出陣したが渡海することはなかつ た」 (全1ページ) |

(2) 朝鮮通信使に関する記述

| 出版社 | 内容 (抜粋) |
|------|---|
| 東京書籍 | <p>朝鮮と琉球王国 「江戸幕府成立後、対馬藩の努力で日本と朝鮮との間の国交が回復し、将軍の代がわりごとに、これを祝う使節（朝鮮通信使）が日本に派遣されるようになりました。」（欄外「福山の対潮楼の写真」「福山藩士と交流する朝鮮通信使」の絵）</p> <p>全4分の1ページ 琉球王国の内容と一緒に記述 本文8行</p> |
| 学び舎 | <p>江戸を行く朝鮮通信使 漢城から江戸へ 申維翰と雨森芳洲 日本と朝鮮の国交回復</p> <p>シンユハンと雨森の二人の会話が本文に掲載 欄外資料5点 通信使行列の絵など</p> <p>全見開き2ページ</p> |
| 清水書院 | <p>朝鮮との関係 「幕府は、将軍の代がわりごとに朝鮮に使節の来日を求め、朝鮮は日本の情勢を探る目的もあって、使節団を派遣した（朝鮮通信使）。</p> <p>欄外に雨森芳洲の肖像画と解説あり （全2分の1ページ）</p> |
| 帝国書院 | <p>「朝鮮への窓口」「対馬では、幕府と朝鮮との国交回復のなかだちをつとめた宗氏が朝鮮との貿易を担当し、朝鮮の釜山には貿易を行う倭館がおかれました。～朝鮮からは、おもに将軍がかかわるごとに就任祝いの外交使節が日本を訪れました。この施設は朝鮮通信使とよばれ、江戸時代には12回やってきました。」 本文全10行</p> <p>欄外 江戸城に向かう朝鮮通信使の絵、福山対潮楼、唐子踊り、朝鮮人街道写真</p> |
| 日本文教 | <p>「～その後、将軍が代わるごとに、朝鮮からは朝鮮通信使とよばれる使節が江戸をおとずれるようになりました。500人におよぶ使節のなかには学者がおり、江戸やその途中の各地で日本の学者と交流を重ねました。」 本文全9行</p> <p>欄外 唐子踊り、江戸城に向かう朝鮮通信使、雨森芳洲の肖像画</p> |
| 教育出版 | <p>朝鮮と対馬藩「朝鮮との国交は、豊臣秀吉の朝鮮侵略以来途切れていましたが、対馬藩の宗氏の仲立ちにより、国交が回復しました。朝鮮の釜山には倭館が設けられ、貿易を許されました。～朝鮮からは、日本の将軍の代替わりごとに通信使とよばれる使節が派遣され、宗氏の案内で江戸を訪れるようになりました。」 本文7行</p> <p>本文外：鎖国下の日本の窓口の図 朝鮮通信使江戸市中行列図</p> |
| 育鵬社 | <p>朝鮮との関係 「徳川家康は国交の回復をはかり、朝鮮も我が国に朝鮮通信使を派遣しました。対馬藩の大名宗氏による朝鮮との貿易も再開されました。以後将軍がかわるたびに祝賀の使節として通信使が江戸に送られ・・・」 本文9行</p> |
| 自由社 | <p>朝鮮・琉球・蝦夷地「徳川家康は対馬藩主の宗氏を介して秀吉の出兵で断絶していた朝鮮との国交を回復した。朝鮮からは将軍の代がわりのたびに朝鮮通信使とよばれる使節が将軍を表敬訪問した。」 本文5行 欄外釜山倭館の絵、朝鮮通信使来朝図</p> |

その「ひたち」に乗って

安藤

朝の通勤時間帯が過ぎすでに暑いさなか、7月20日月曜日午前9時4分水戸を出発した常磐線下り普通列車は、約2時間かけてゆっくりと北上し11時前にいわき駅に到着する。今夏の短い旅のスタートである。学校は例年なら夏休み直前であるが、周知の通りコロナ禍の休校の影響で、8月第1週まで1学期である。したがってこの日は授業日になるが学校行事の代休日であり、旅心がうずきだしたのであった。ただ南に行くことはできない。3月から6月まで越県規制がかかり、やっと緩和されて来たが、東京および周辺3県との移動はまだ規制されている。原発事故によって「北」に行けなくなった9年後まるで「北」への常磐線全通と期を同じくして「コロナ禍」によって「南」にいけなくなった。そのような状況でふと思いたった福島浜通りの日帰り旅行を決行することにした。旅行といってもバスと鉄道を乗り継ぎ行った先の町を歩くといった文字通りいきあたりぱったり旅である。福島浜通りに行くのは、埼玉交流会の後「ふくかんネット」や堀越先生にお世話になりながら、チョハンミさん夫妻らと訪ねた時以来である。

いわき駅に降りたのも東日本震災前もう10数年以来である。その時の駅前と現在の駅前の様変わりにまず驚いた。きれいに整備されたバスターミナルは私の記憶と見事に相違している。いわき市は原発事故で避難してきた人々が多く住むところであり、同時にここから各地に避難していった人々もいる。震災と原発事故はこの街にも大きな影響を与えたはずだ。ここからは約40km離れた富岡駅まで路線バスを利用することにする。ほぼ国道6号線を通るこの急行バスは、1時間余の所要時間である。途中津波で大きな被害を受けたいわき市久之浜地区を通ると、高台に新しい住



帰宅困難地域(富岡町)



なにもなくなった富岡駅前

宅地が出来ているのが見えた。さらに進む。いわき市から広野町、大熊町と通って行くうちに大型ダンプカーや社用車と思われるワゴン車と多くすれ違うようになる。いわき～広野にかけての国道6号線は山側に新しいバイパスがすでに完成している。このバイパスは確か震災前にはまだ出来ていなかったと思う。震災後の復興支援(実は原発事故関連)事業とやらで急遽完成させたので

はないか。その道では原発事故の結果を見ることはほとんどないだろう。もしかしてそこで「聖

火リレー」するのだろうか?一方旧道を通るバスの沿道では人の気配のない住宅や店舗の数も増え、9年の時が止まっている様子もうかがえる。聖火リレーやるならここだろう。

大熊町では黒い大きなビニールシートの山も見える。

しかし富岡に入り私が思い描いた過去の光景の再会があっさり裏切られた。

福島第二原発の横を通りバスは、富岡の街中から海側にある駅に向かい国道を離れる。その時私は眼を見張った。6年前チョハンミ夫妻らと訪れた時は、駅に続くこの通りは「帰宅困難」地区であったこともあり、震災の時の様子そのままの街並みが残っていた。あの時は帰ることができ

なくなったこの街の人々のことを想い、心が重くなったものであった。しかし今回来てみると、駅前周辺は6年前のそれが、跡形もなく変わっていたのだ。空地の多い街路は整備され、まるでこれから入居が始まる新興住宅地の様である。しかも一般住宅よりも間取りの多くなさそうなアパートが沿道に多く建っている。このようなアパートの住人が一時滞在者が多いのは、私の住む鹿島臨海工業地域の特徴であるが、もしそれがここでもあてはまるとすると、やはりあの関連事業の関係者向けなのかなと思う。双葉や以前訪れた南相馬それから先ほど通ったいわきにも数階はある立派なビジネスホテルがあったが、これも同様なかもしれない。

富岡駅前に着き、バスを降りる。ここも6年前と様変わりしていた。あの時は震災で大きく壊れた店舗や住宅があったのに、今は駅前ロータリーがあり、何もなく広々としている。(本当に何もなくなっている)。たった一軒「がんばれ富岡」という文字が見える売店があった。駅は6年前は津波で改札の一部が残っただけだったが、駅舎が見事に改築されている。ただし無人駅で、中には放射線量を示す電光掲示板があることが原発の近さを物語る。ここにはかつての町や駅前のにぎわいが感じられるものはない。するとちょうど下り電車が入ってきて、スーツ姿の人物が2人おり、場違いにも思えたタクシー乗り場のタクシーに乗っていった。今度はバス乗り場に1台のワゴン車が入ってきた。大熊町の住宅と富岡駅・大野駅を結ぶ無料バスだと休憩中の運転手さんが教えてくれた。大熊町も人の居住が許可された地域と帰宅困難地域があり、人の住む地域を縫うように運行しているようである。帰宅困難地域が解除されても戻ってきた人は少ないことも話していた。

ここから川内村に行くバスがあるので乗る。バスは途中富岡町のショッピングセンター前で乗った女性がまた途中で降りた切り、乗客は私1人である。

川内村に行くには途中狭い県道を通って登ってゆく。その山道でも多くのダンプカーとすれ違う。何の運搬かはわからないが、この道でも川内村の道でも多くみかけた。富岡駅からほぼ1時間乗って川内村の役場を通り終点まで来た。午後2時半で、日差しが強い。次の富岡行は3時なので30分くらいウロウロする。降りた集落の裏には田んぼが広がり、緑が広がって周囲の山と相まって、心がなごむ。そういえば今日福島に入って初めて見た田んぼかもしれない。富岡にもかつては水田がひろがっていたのだが。ただ川内村も帰宅困難地域に指定された区域があるなど、原発事故の影響を受けている。(現在川内村の帰宅困難地域は解除)

午後3時丁度のバスに乗り、富岡方面にもどる。途中夜ノ森駅西口で下車した。夜ノ森は桜の名所として有名である。夜ノ森駅はかつて東側だけに入口があり、その駅前通りから桜並木が続いていた。ただし夜ノ森駅周辺の大部分と同様入ることの制限されている帰宅困難地域であり、国道と駅までの道だけが常磐線全通に伴い、急遽除染されたということである。6年前はこの辺りから北側は完全に入ることが出来ず、草ぼうぼうになった夜ノ森駅周辺の線路をみんなでみた覚えがある。現在は夜ノ森駅も改築され帰宅困難地域から除外された西側からの入り口も新設さ



夜ノ森駅の横断幕



夜ノ森駅(東口)



無人の浪江駅前の雑居ビル



特急ひたち 26 号 (浪江駅)

れたようだ。西口から改札までの通路を行くと、夜ノ森の桜の横断幕がかかっていた。私は福島というと堀越さんの三春町の滝桜とこの夜ノ森の桜が思い浮かぶ。どちらも桜の咲く時期以外に訪れたことがあったので、また行ってみたいなと思っていた。滝桜は行こうと思えばいけるが、夜ノ森の桜をまたこの目で見られる日は来るのかなと一瞬思った。

夜ノ森からまた常磐線に乗って浪江に向かう。この間約 15 分の所要時間である。夜ノ森を含む富岡～浪江がこの春

コロナ過の中で復旧した区間だ。コロナ無かりせば、復興のシンボルだとか、あの人がオリンピックでこのことを自画自賛したに違いない。それが思惑通りにならなかったことに言葉はわるいが溜飲が下がる。その「復興」とやらが福島の現実とかけ離れていることは、来てみれば一目瞭然だ。夜ノ森から双葉と福島第一原発の近くを通る。鉄道や国道は回復したが、同時に人々の暮らしが回復するのには、相当な困難が伴っていることも見える。国道は車が通るが、沿道の住宅や店舗には簡易フェンスが覆われている状況、枝道にも通行禁止の表示がある。その奥には震災で時が止

まったかの風景が広がっている。それは列車の車窓からも見える。これらの現実は何をもって「復興」というのかと問いかけるように思える。それを感ぜずには居られない。これを知ることが出来るのもかなり強引にという感は否めないにしろ、交通が再開されたからである。こんなことも思いながら、浪江駅に降り立つ。

浪江は 2 年前仙台から常磐線を南下する形で、訪れていた。前はここが北側の終着だったからか、駅員がいたが、今回はこの駅も無人になっていた。浪江駅周辺は富岡と異なり、被災が少なかったためか、震災前と風景があまり変わらない。というよりここも震災後時が止まったままである。浪江町・双葉町はかつて福島第一原発のおひざ元として栄えていた。浪江駅前にあるバーやスナックの入った雑居ビルもそれを物語る。ただ今は夕暮れ間際というのにひとつこひとりいない。入るとほこりを被った看板と、通路におちた壁の化粧タイルのみ。ここにも光は戻っていなかった。

午後 5 時 25 分発の常磐線上り特急ひたち 26 号品川行は 1 分ほど遅れて浪江駅ホームに滑り込んだ。その『ひたち』に乗って」帰途に就く。水戸までは約 2 時間、終着品川までは 3 時間半の所要時間である。夕暮れ間際の福島浜通りをあとにして水戸で下車する。7 時半近くになってもうすっかり日も暮れているが相変わらず蒸し暑い。水戸を出るひたち 26 号の次の停車駅は「上野」である。見えない壁の向こうに行くかのようないつもに比べ乗客の少ない特急列車に別れを告げて、短い旅行は終わった。

ウリ 124 号 2020 年 11 月 1 日

日韓合同授業研究会 代表 藤田

事務局連絡先 E-mail: larrabee1991@yahoo.co.jp